

▲▽▲▽海員組合担当支部へようこそ▲▽▲▽ 八戸支部

八戸支部が位置する八戸市は、青森県の南部、三陸海岸に位置し、古くから「人」や「物」が行き交う交流の拠点として賑わってきました。八戸支部は、東北新幹線「八戸駅」でＪＲ八戸線の「久慈・種差海岸・鮫」行きへ乗り換え「陸奥湊駅」で下車して、車で五分ほどのところで、中型いか釣り漁船、大型いか釣り漁船、沖合底曳網漁船、大中型巻き網漁船、遠洋マグロはえ縄漁船、遠洋トロール、底刺し網漁船、漁業無線局、タグボート会社、旅客船会社などを担当しております

八戸市の特徴

青森県東部に位置し、太平洋側に面していることから、冬は北東北にありながら降水量は少なく晴天が多い地域。八戸の名称は、岩手県北、青森県南西部一帯に古くから存在している、「数」に「戸」のつく地名となっています。

八戸港は、工業港、フェリー港、特定第三種漁港を兼ね備えた青森県最大の港湾で、毎日多くの船舶が出入港しており、港町の賑わいを見せています。

特に八戸漁港は、第一から第三魚市場に分かれ、イカ、サバ、イワシ、スケソウダラなど毎日多くの魚種が水揚げされます。水揚げされたばかりの新鮮な食材を求めて、早朝から威勢のよい声が飛び交う、活気あふれる「せり」が行われます。

八戸には、海からの恵みに育まれた昔ながらの朝市文化と横丁文化が今も息づいており、蕪島を筆頭に、種差海岸、是川遺跡、館鼻岸壁朝市などの多くの観光スポットがあります。

▽蕪島

蕪島は、種差海岸の最北に位置し、国の天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」として指定100周年を令和4年3月8日に迎えました。ウミネコの繁殖の様子を間近で観察することができる国内唯一の場所で、毎年3月上旬頃に蕪島に飛来するウミネコは、4月頃に産卵をはじめ、6月頃にはヒナがかえり、8月頃に蕪島を旅立ちます。

もともとは完全な離島でしたが、昭和17年に埋め立て工事が行われ、現在のような陸続きとなりました。春から初夏にかけて菜の花が咲くと、蕪島神社の鳥居、青空、そして、白いウミネコの非常にコントラストが美しい、島の光景を見ることができます。

平成27年4月にオープンした蕪島休憩所では、蕪島やウミネコを大きな窓越しに、上空を飛び交うウミネコのフンを気にすることなく観察することができます。内装には木がふんだんに使われ、蕪島の四季、歴史などをパネルで学ぶことができる資料館の役割も担っています。建物は築山で覆われており、ウミネコが営巣したり、訪れた人々がくつろいだりすることができる憩いの場所です。

最東部に位置する種差海岸は天然の芝生に覆われた段丘面が広がり、太平洋が見下ろせる開放的な景観地です。

▽是川遺跡

縄文時代の是川遺跡は、国の史跡に指定されており、令和3年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録されました。

▽館鼻岸壁朝市

3月から12月の毎週日曜日には、国内最大級の館鼻岸壁朝市が開催され、地元の人からは、館鼻朝市と呼ばれ、八戸市を代表する観光名所のひとつとなっています。

「海員だより」